

# [dōnk]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務所 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4 Higashi-

Marunouchi Tsu JAPON ☎ 0592 (26) 3159

N° 018 le 15 septembre 1991 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

フランス名画鑑賞会・〈シラノ・ド・ベルジュラック〉

会員は無料招待いたします

10/12 津シネマ・フレンズ主催 三重日仏協会後援

『シラノ』が都市部で好評続映のためプリントが足りず、予定より大幅に遅れましたが、総会でお約束した「名画鑑賞会」が10月12日(土)に決まりました。

二本の上映映画の詳しい紹介は同封のチラシをご覧ください。

会員ご本人については無料招待、また同伴者も当日1500円のところを1000円とさせていただきます。同封のカードに必ず自筆ご署名のうえ、当日受付に提出してご入場ください。



## 会 員 の ペ ー ジ

### 『シラノ・ド・ベルジュラック』がやってくる！

渡 辺 芳 敬

パリはシネフィルにとってこたえられない街、環境の充実こそが映画への愛を育てることを身をもって教えてくれる街です。アメリカ映画やソ連映画の専門館がある一方、新人監督特集や日本映画特集といった自在なプログラム編成のもと、アナーキーな雰囲気漂わせながら、それでいて体系的・網羅的に古今東西の名作・旧作・新作をほぼ同じ条件で見ることができるのです。そんなパリで見た忘れられない映画といえば――

サスペンス物でありながら、いやサスペンス物であるがゆえに、すぐれて実験的な映画を撮り続けたヒッチコックの名作の数々。スクリーン狭しと踊りまくるフレッド・アステアの、なんともいえず観る者を陶然とさせるミュージカルの数々。シルベスター・スタローンやシュワルツネッガーのような強(狂?)靱な男の肉体ではなく、男の肉体の哀しさを垣間みせるクリント・イーストウッドの「男」のドラマの数々。日本以上に日本映画を見ることができたのもパリという街のなせる業ですネ。たとえば、田中絹代が監督した

(小津安二郎脚本の)『月は上りぬ』という作品を皆さんはご存じでしょうか。

もちろんフランス映画も、ほぼ毎週新作が封切られ、かつテレビでその紹介番組が放映されることもあって、かなりの量をこなしましたが、いかんせん、日本同様、物量作戦で押しまくるアメリカ映画＝超娯楽作品に比べ、人気・実力ともにいまいちだったことも事実。そんなフランス映画あやうしという国民的危機感(?)の蔓延するなか、久方ぶりのヒット作品となったのが近く津でも上映される『シラノ・ド・ベルジュラック』です。主演のジェラルド・ドゥパルデューは日本ではあまり知られていませんが、『愛と宿命の泉』のエマニュエル・ベアールのお父さん役、あるいは『カミーユ・クロードル』のロダン役といったら思い出していただけるでしょうか。トリュフォーの『終電車』(カトリーヌ・ドヌーヴとの共演)や『隣の女』(ファニー・アルダンとのラブ・ストーリー)を知ってらっしゃる方はかなりのドゥパルデューフアンですネ。最近では、



『グリーン・カード』の成功で、ついにフランスのドゥパルデューから世界のドゥパルデューへとおどりできました。

あの無骨というしかない風貌。独特の鼻。太り過ぎてラブシーンができない肉塊。アラン・ドロンの「二の線」からはほど遠いかれですが、フランス映画の源流を紐解けば、どうしてどうしてかれはいわゆる「醜男」の系譜＝怪物俳優の系譜にちゃんとおさまっているんですネ。ジャン・ギャバン、リノ・バンチュラ、ジャン・ポール・ベルモンド、そして最近ではやはり『愛と宿命の泉』のダニエル・オートゥイユと、連綿と続くフランス的特異俳優の一人である、といったら皆さんは驚かれるでしょうか。

ともあれ、水を得た魚の如く、喋りまくるドゥパルデューを、走りまくるドゥパルデューを、そしてかぎりなく繊細なドゥパルデューの圧倒的な魅力を、是非堪能していただけたらと思います。

(三重大学人文学部助教授・フランス文学)

## Interdit, Défense de, Gênant.

新幹線や近鉄特急にも禁煙車両はあるが、その数はなお過少だと思う。1970-80年代のSNCFでは半々 *moitié-moitié* だった。

もっともここでは禁じられるのではなく、*fumeur* と *non fumeur* の表示があって各自の意のままに乗りこむところが良かった。

しかしフランスにも禁止の標識は多い。

*Entrée interdite* 立入禁止、*Défense de fumer* 禁煙、*Stationnement gênant* 駐車ご遠慮ください(か?)、などだ。

*interdit* は、*Jeux Interdits* 禁じられた遊び、の通念からもよくわかるし、映画 *La Grande Illusion* の捕虜収容所ではその規則は *interdit* だらけだった。*Défense* も理解しやすいことばだが、*gêner*, *se gêner*, *être gêné*, *gênant* などは私たちにとって難しいのか、案外使いやすいのか?

Maxime Le Forestier が70年代の初めに世に出した歌 *Parachutiste* はフランス落下傘部隊の暴虐を糾弾、揶揄したものだが、終戦除隊後のことを書いた最後節は *Mais si t'es vraiment trop gêné d'être payé à ne rien faire / Tu peux toujours te recycler chez tes petits frères / Je crois qu'on engage dans la Police; Parachutiste.* という。この場合の *être gêné* は、気がひける、とでもいおうか? 知識人たちは彼はきっと暗殺される、と憂慮したが幸いにもその悪いニュースはきかない。考えが違うからといって人を殺そうとするなどは *interdit* 以前の問題だ。

(Ours)

## 国際交流財団がシンボル・マークを募集

この6月発足した財団法人三重県国際交流財団では、国際交流の推進と「21世紀に飛躍する三重」をイメージしたシンボルマークを募集しています。

作品はB5用紙に10×10cm程度とし、3色まで使用可。

締切りは11月末日。賞金・最優秀10万円、佳作1万円。

詳細は、津市桜橋3-446(財)三重県国際交流財団 ☎0592-23-5006まで。

## ペタンクへの参加を要請 10/13

三重県の高齢者のオリンピックともいえる『はつらつ長寿フェスティバル'91』(三重県長寿社会推進センター主催)が、10月13日(日)四日市市体育館を中心に開催されますが、そのなかに今回はじめてニュースポーツ講習会としてペタンクがとりあげられることになりました。経験者が少ないため、主催者では日仏協会メンバーの協力を呼びかけてきました。ふるってご参加ください。(詳細は事務局まで)

## 美酒とゲームで盛りあがった「パリ祭」 7/14

本会会員・島田さんが経営するパブ『ダダ』(津市大門)で開催された今年のパリ祭は、フランス人やオーストラリア人、さらにパリから一時帰国中のリセエヌヌ姉妹も含めて約50人が参加、楽しい集いでした。

とくに今回はフランス総領事からプレゼントされたワインのほか、雲井副会長、宮崎理事からも仏・奥・日の銘酒を各種頂戴し、贅沢な酒宴に。新趣向の、フランスに困んだビンゴゲーム(豪華?賞品つき)もなかなかの人気でした。



ごきげんの beaux messieurs



赤ちゃんも参加